

# 令和4年度 SHIBETSU 子ども議会だより



## 士別の未来を話し合う！

### 【開催日】

令和4年12月21日(水)

午後3時30分～

午後5時20分



### 【目次】

■市長挨拶	1頁
■議事日程	2頁
■子ども議会の一般質問と答弁	3頁～
■子ども議会の流れ	11頁～





ご挨拶

士別市長

渡辺英次

令和4年度子ども議会だよりを発行するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止により日程の延期をして開催しました子ども議会ですが、今年度は予定通り開催することができ大変嬉しく思います。

市内4校の中学校から士別市への想いをもって参加された7名の子ども議員の皆さんは議会の仕組みやまちづくりについて講義を受け、自分たちが考えている質問・提言について調査研究を重ね、質問通告書を作成し、子ども議会に臨んだこと、たいへん素晴らしいと思います。

子ども議会当日、議場に立った皆さんは緊張している様子でしたが、堂々と質問通告書を読み上げとても輝いて見えました。

今回の皆さんの提言は、姉妹都市や環境問題、安全対策、雇用、商店街など多岐にわたり子ども議員一人ひとりが様々な視点で士別市のまちをより良くしたいという想いに溢れ、私にも十分伝わりました。皆さんが本事業で学んだこと、人と人とのつながりをこれからの歩みに生かし、大きく成長することを期待しています。

私も『市民が豊かにいつまでも安心して暮らせるまち』の実現に向け、子ども議員からの意見を大切に受け止め市政に反映させてまいりますので、今後とも関係者をはじめ市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

# 令和4年度 士別市子ども議会 議事日程

日時 令和4年12月21日(水)午後3時30分開会  
午後5時20分閉会

場所 士別市議会議場

- 1 開 会
- 2 議事日程の報告
- 3 市長挨拶
- 4 一般質問

(前半議長) <sup>たかしま ゆうすけ</sup> 高島 佑介

前 半	通告議員		質問事項	答弁者
	1	すがわら ひなた 菅原 日向 (上士別中1年)	外国の姉妹都市との交流について	市 長
	2	かみかわ はるか 上川 遥久 (士別中1年)	公園や歩道に捨てられているゴミについて	副市長
	3	えぞき みりや 江崎 未里耶 (朝日中1年)	通学路の安全対策について	教育長
	4	ふじた はると 藤田 悠斗 (士別南中1年)	職業を選択するために、仕事内容をわかりやすくまとめた士別版のパンフレットについて	市 長

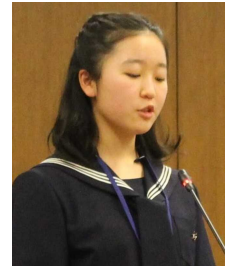
(後半議長) <sup>かみかわ はるか</sup> 上川 遥久

後 半	通告議員		質問事項	答弁者
	5	<sup>たかしま ゆうすけ</sup> 高島 佑介 (士別中1年)	商店街を知るための職業体験について	教育長
	6	よしだ あきお 吉田 明生 (士別中1年)	市の花、市の木について	副市長
7	もり もと 森 萌斗 (士別南中1年)	羊肉を材料とした料理による食育の推進について	市 長	

- 5 市長挨拶
- 6 閉 会



# 外国の姉妹都市との交流について



## 1番 菅原 ひなた 議員（上士別中学校1年）

**問** 私は、外国の姉妹都市との交流について提案する。

理由は、私が小学生の頃に、姉妹都市であるオーストラリアのゴールドバーン・マルワリー市（以下マルワリー市）から来た留学生と交流し、日本とは違う文化や言語を知り、興味を持ったことによって、英語を話せるようになりたいなど、今の私の中学校生活にも大きな影響を与えているためである。

しかし、最近ではコロナ禍のため、外国の都市との交流が難しい状態である。

そこで解決策として、①オンラインによりリアルタイムでつながる交流を行う。②動画を撮影してお互いに送り合うという方法を提案する。

学習の中で市職員に話を聞き、マルワリー市には日本の文化や言葉などに強い興味関心を持つ方々がいることを知った。特に、士別市とマルワリー市の魅力や伝えたいことをお互いに発信することができ、時差も影響しない動画撮影はマルワリー市との交流にとっても役立つと考える。

グローバル化が進む今、外国との交流は非常に大切であ

り、昨今のインターネットの普及により、交流方法の選択肢は大きく広がっていると考える。

それらを活用しながら25年以上続いているマルワリー市と、新しい形で交流を再開してほしいと考える。

### 答（渡辺市長）

菅原議員からは、小学生の頃に経験したマルワリー市との交流によって大変刺激を受けたと話があり、それがきっかけで英語を話したいと思うようになったと話をしていただいた。

グローバル化に向けては外国との交流が非常に大切だと考え、マルワリー市との交流を再開してほしいという提案については、まずマルワリー市との学生交流について、今後ぜひ戻したいと思っている。しかし依然としてコロナ禍が続いている状況もあるのでどのような形での実施が良いかの考え方だが、これまでの交流については、令和元年7月にマルワリー市から短期留学生10名が士別を訪れ、市内10世帯でホームステイを実施した。

しかし令和2年、新型コロナ

ナが発生したことによりこれまでであった派遣を中止し、次回士別市から派遣をするという約束をしたところである。その中であって翔雲高生とマルワリー市のトリニティ高生との間で、これまでZOOMを活用したオンライン交流を同年10月、11月に2回実施してきた。

ただ、その時の課題としてお互いの時間の調整が難しかったこと、それから一回につき30分程度しか時間が取れず、全員が自由に発言する交流はできなかったという反省点があった。

その後2月に、トリニティ高校から翔雲高校に手紙が届き、希望する生徒から返事を作成して送付をしたこともあった。

ただ、これについても費用や直接顔が見えないといった課題も感じたところである。その後、令和3年、4年の学生派遣の実施についてマルワリー市と協議をしてきた。しかしトリニティ校側の窓口だった先生の退職もあり、オンライン交流もその後できていない状況が続いている。令和5年度は、学生派遣に向けて今

後マルワリー市と調整を進めていきたいと考えている。

そこで今回提案されたオンラインでの交流・動画の交換については、非常に有効だと思っているところである。

今後、これまでのような交換留学については来年度再開をめざして協議を進めていくが、コロナ禍により再び延期という可能性があるため、動画の交換、あるいはオンラインによる交流、それに合わせたSNS媒体もあるので、どのような形で交流するのが有効なのか考えながら提案いただいた交流を、ぜひ再開させるように我々もしっかりと情報を共有しながら取り組んでいきたいと考えている。

### 子ども議員の感想

自分が普段の生活で気にしていなかっただけで、市が様々な分野で市民がより良い生活を送れるよう工夫していることを感じた。

# 公園や歩道に捨てられているゴミについて



## 2番 上川 遥久 議員（士別中学校1年）

問

僕は、公園や歩道にポイ捨てされているゴミ対策について提案する。

理由は先日、公園で友達と遊んでいた際に捨てられていた空き缶やマスクを見て、とても嫌な気持ちになったからである。その時は、空き缶を家に持ち帰り捨て、マスクは触ることに抵抗がありそのままにしてしまった。

このような経験から、今回のテーマとして取り上げた。子ども議会の学習会で市職員に話を聞いたところ、士別市にはポイ捨てに関する条例があること、道路や公園に落ちているゴミは、道路パトロールの際などに拾っていること、郊外などには不法投棄をしないよう看板をたてていること、春と秋には自治会に協力いただいでゴミ拾いをしていくこと、広報やホームページなどにポイ捨てをしないように周知しているなどの対策をしていることがわかったが、ゴミを捨てた後よりも、捨てさせないようにする対策が不十分なのではないかと感じた。そこで考えた対策として、郊外だけではなく、市街地にも看板を立てることである。

例として栃木県日光市では

小学生が自分達で色々調べ、市に看板設置を要望し、看板デザインも考え、看板を設置したということがあった。

しかしこれは時間もかかりそこまではできないと考え、小学生からポイ捨て禁止のポスターを募集したり、中学校の美術部などにポスター制作を依頼するなどして作成し、設置すれば、人の目にも留まるし、子どもたちのゴミに関する意識も変わり、ポイ捨てが減るのではないかと考えた。士別市がきれいで住みやすいまちになればいいと考える。

答（法務副市長）

上川議員は公園に捨てられていた空き缶やマスクを見て空き缶は持ち帰り処分をしたということであるが、私も自宅付近でマスクやゴミが落ちていて拾う時には、やはり気持ちの良いものではない。

現在、市で行っている対策については、「士別市空き缶等のポイ捨て及び飼犬等の糞害の防止に関する条例」を制定しており、ポイ捨てなどで人に迷惑をかけた不快感を思わせないこと、きれいなまちづくりを進めましょうと

いう目的で制定をしたものである。市民への周知については広報誌やホームページ、スマホアプリの「くらしナビ」があり、マナーを守ることやゴミの分別方法、ゴミ出しの仕方などをしている。

また、不法投棄を未然に防止するため定期的な監視パトロールを始め、不法投棄の注意看板を30箇所ほど、加えて監視カメラも設置している。

また、全市的な清掃活動も行っており、各自治会で春と秋に一斉清掃、子ども会のある自治会は、廃品回収などを実施しているところもある。

このほか多くの団体、企業、学校などでごみ拾いを実施しており、士別市のきれいなまちづくりに協力をいただいている。

しかしこうした活動や対策をとってもポイ捨てがなくならない状態が続いており、継続した取り組みを行っていく必要があると考える。

提言のあったポスターを看板として市街地に設置することについて、現在、市街地には不法投棄の注意看板を2箇所設置しているところである。それから日光市の事例があ

り、子どもの絵にはポイ捨てを抑止する効果があると思うので市でも取り入れてはと話にあったが、一番の課題はポスターを募集することで、以前市内の小中学生からゴミ対策や地球温暖化対策などの環境対策に関するポスターを夏休み期間の宿題として募集したが、応募者がいなくて中止した経緯がある。

また、美術部で協力いただけるかなど学校に確認するほか、設置場所の選定や、ポスターの枚数の検討など課題を整理していく必要があると考え

る。ポイ捨てされたゴミの中には、瓶や缶、ペットボトルなど適正にリサイクルすることによって資源、ゴミとなるものも多くあり、引き続き市民へ呼びかけ、まちをきれいにしようとする市民が増えるように取り組んでいく。

### 子ども議員の感想

集中力を高め、継続的に物事を進めること、最後まであきらめず調べることや見通しを持って行動することを学んだ。

# 通学路の安全対策について



## 3番 江崎 未里耶 議員 (朝日中学校1年)

**問** 私は、「通学路の安全対策」について質問する。

理由は朝日中学校への通学において道道を通ることが多いが、自転車で道道を走行する際の道幅が狭いため、大型の車が来た場合などは危険を感じることがある。

実際昨年7月に同級生が自転車に乗って下校途中、車に轢かれて大怪我を負った事故があり、通学路の安全対策が必要だと強く感じた。

自転車に乗る際の安全対策について、道道土別滝上線は道幅が狭く大型車両の通行が多いため、自転車は原則車道を通行しなければならぬが、危険を感じた場合は、自転車を降りて歩道に上がるなどの行動をする。

また、車両との接触や転倒した際、ヘルメットをかぶっていたことで頭が守られ、命を落とさずに済んだ事例がたくさんあり、北海道では、「北海道自転車条例」のなかで、ヘルメットの着用を奨めているが、ファッション性や髪型などを気にして着用しない方が多い実情があるとのことだ。狭い道路で事故を起こさな

いたためには、自転車と自動車  
が注意し合う必要があるため、「市道や道道の横の白線の引き直し」と「ヘルメット購入に対する補助」を提案する。

### 答 (中峰教育長)

江崎議員からは、昨年7月に朝日中学校の前で起きてしまった交通事故も踏まえての提言であり、私もその事故の報告を受けた時には非常に驚き、心配をした。

まず一つ目の質問の道路の路肩の白線について、道路交  
通法の中で自転車は軽車両となっており、歩道と車道の区別があるとところでは車道の左端に沿って通行することが原則とされている。

また、歩道が設置されていない場合は路側帯といって、道路の端に白い一本の線が入っているところを通ることに  
なり、その時にも歩行者を優先したうえでの通行となっている。その中で、例えば逆走をしてしまうと、これは違反として罰則が科せられることも決められている。

また、道路のセンターラインについては対向車同士で重大な事故になることを避けるために、優先的に白線を維持

することに努めているが路肩側、横の線については整備が追いついてない状況がある。

ただ道路横の外側線、路肩の方の線も安全性の面から大  
事なものなので、できるだけ整備していくように検討していきたい。

また、道道土別滝の上線の話もあり、拡幅工事のために朝日中学校の前でフェンスの移設整備がされているができるだけ早く完成をすること、そして通常の維持管理についても道路を管理している北海道にできるだけ安全性を確保する要望をしていきたいと考えている。

最後にヘルメットの購入に対する補助の話があった。  
北海道が定めた北海道自転車条例では、自転車に乗る全  
ての方が自らの安全を確保するために乗車用のヘルメットを着用するように努めなければならぬとされている。

また、今年4月に公布された道路交通法の一部を改正する法律でも自転車の運転者はヘルメットをかぶるように努めなければならぬということである。  
ただこれらは努力義務にな

っているので絶対の義務ではない。

しかし警察庁が調べた結果によると、自転車での死亡事故の場合の一つ目には、ヘルメットを着用していない場合は着用している場合の約2.2倍の致死率になる。それからもう一点、死亡者の致命的、致命傷になっている方の部位は58%が頭部を打ったことによるものであることがわかっている。

土別市のPTA連合会からもヘルメットについての話をいただいたおり、ヘルメットの着用についてどのように考えているのか、購入する考えがあるのかを調査しながら、今後補助が望ましいのか、補助できるのかを含めて、例えば通学に自転車を使う子以外にも色々な形で使う方もいるので、対象範囲についても検討したいと考える。

### 子ども議員の感想

作文が苦手であったが、学習を通してメモを取るようになり、質問通告書を作成することができた。



# 職業を選択するために、仕事内容をわかりやすく まとめた士別版のパンフレットについて



## 4番 藤田 悠斗 議員 (士別南中学校1年)

問

私は、職業を選択するための仕事内容をわかりやすくまとめた士別版のパンフレットについて提案する。

私は将来、建築士の職に就きたいと思っていたが、ニュースを見ていて農家が減っているというのを知り、農家を継ぐのも面白そうだと思った。

農家になる上でどのような支援があるのかが気になり、学習会の中で市職員に話を聞いた結果、様々な支援があることを知り、農家を継ぐことへの不安が少し薄くなった。しかし、支援制度を知ったのは、様々な部署で話を聞いたからであって、機会がなかったら一生わかることがなかったと考える。

そこで、ぼくは市内の職業のなり方や、業務をまとめたパンフレットをつくることを提案する。

このパンフレットをつくることによって、士別市内にある職業がわかり、それに就きたいと考えたり、就き方や必要な資格、能力を知ること、小学生のときから士別市で働くことと思いきっかけをつくることができると思う。

また、士別市にある職業に就くことで他の地域への人口流出を防ぐことができるのではないかと考える。

そしてパンフレットをつくるには、様々な職業の方の協力が必要であり、地域と人口減少の問題に対して協力することで、地域の活性化に繋がると考える。

パンフレットづくりを通して、士別市をより良いものにしてほしいと思う。

答 (渡辺市長)

藤田議員からは、自分が大人になってからどういった仕事をしたいか関心を持っていくことがよくわかった。

本市では、例えば農業をやる、あるいはお店を開きたい方への資金面での支援、会社を経営している方への経営相談、それから自分で会社をつくりたいと思っている方への起業、企業研修の支援を行っている。

内容は、対象となる仕事の種類、支援の種類が非常に多岐に渡っていること、また、コロナ等、急を要する状況にに応じて新たに追加した支援もあり、毎年変わるの、一冊にまとめることは難しいと考

えている。

会社は自分の会社の事業内容、規模、従業員の増減に応じてハローワークや求人サイトをを使って募集をしている。仕事を探している方はそこに行ったり、求人誌を見ながら仕事を選んで自分のやりたい内容、自分が考える条件に合う職場を選んで申し込むのが一般的である。

それから職業の就き方についてだが、まず基本的に民間の会社に入社しようといった場合は、その会社に対して自分の学歴、性格、自分の経験したもの、持っている資格などを書いた履歴書やエントリーシートと呼ばれるものを会社に提出する。そして会社の方がそれを見て判断し、面接を経て採用になる流れが一般的である。

それらと違い、市役所や消防署、いわゆる公務員については、筆記、実技試験といったものを必要とする場合もある。その他の職業では場合によっては師匠のところへ弟子入りして技術を覚えて、それから戻ってくるといったこともある。

また、看護師、学校の先生

といったような仕事に就くためには、決められた資格が必要になる場合もある。

こういったこともあり、パンフレット1冊にまとめると見やすいものにならないと思われる。

ただ、小学生や中学生のうちから、どういう仕事があるかを知ることとても重要だと考えるため、こういった手段階がいいのか、今後検討を進めていきたいと思う。それから士別市では現在、4年生から6年生を対象とした「しべつ土曜子ども文化村職業体験館」を実施している。

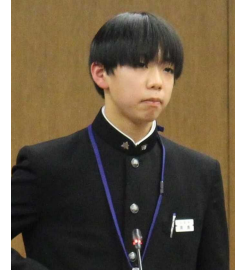
実際に体験してみるのがどういう仕事かわかりやすいことともあると考えるので、今後さらに機会を増やしたいと思っている。

今後もどういった方法が良いのか、しっかりと調査と研究を進めて取り組んでいきたいと考えている。

### 子ども議員の感想

発表を通して自分の言いたいことをまとめる力がついた。

# 商店街を知るための職業体験について



## 5番 高島 佑介 議員 (士別中学校1年)

問

僕が提案したいことは、士別市の商店街をもっと利用してもらうために、「しべつ土曜子ども文化村職業体験館」で商店街を取り上げてもらうことである。

理由は、僕の家は創業120年の靴屋だが、今の時代、インターネットを介したり、大きな都市に行つて買い物をする方が多い世の中である。

そのため、士別の商店街を利用してもらうためには、商店街を知ってもらう必要がある。そのために商店街の魅力をも多くの世代の方に広める必要があると考えた。その方法の一つとして、教育委員会で開催している、「しべつ土曜子ども文化村職業体験館」の体験先に商店街を加えて、小学校高学年だけではなく中学生向けにも行うと良いと考える。そうして、僕と同世代の方たちに商店街の魅力を発信でき、継続的に行うことにより将来広い世代に、商店街を知ってもらふことができると思う。また、道の駅などに「商店街魅力マップ」などを設置することで士別の商店街が注目を浴び、名所となって人気のまちになると思う。

答 (中峰教育長)

高島議員からは、全国的な人口減少の中で、士別市を含む地方都市の商店街の店舗数が減少を続けている。そういった状況に対しての提言であった。

昨年道の駅がオープンし、市内外から多くの方が訪れるようになり、今後さらに商店街との連携が図られて地域全体に波及し、活気が溢れることを期待しているところである。

議員からは、幅広い世代に商店街の魅力を知ってもらいたいことから、「しべつ土曜子ども文化村」の職業体験館を商店街で実施すること。さらに中学生まで拡大して実施してはとの提言であった。

議員自身も昨年度まで3年間、文化村職業体験館に参加されており、その体験も踏まえての話だと思ふ。

職業体験館は市内の企業や事業所などに協力をいただきながら、児童の体験的な学習機会を提供しており、今年度は警察官、新聞記者など、さまざまな職種の実験を事業として実施した。

商店街での実施について、

現在の文化村は主に土曜日に2時間程度の時間を設けて体験できるよう進めており、中心商店街振興組合の代表に商店街での職業体験を実施できるか伺ったが、すぐに実施することは難しい状況であるため、今後も商店街の方々と可能性について相談していく。

また、文化村への中学生の参加について話があったが、将来の職業の選択に向けて小学生の時よりも、より深く学ぶことが重要になるため、インターシップなどの形で一日中その職場で体験するよう実施している。

なお、文化村への関わり方については、指導者のサポート役として参加してもらうことと検討を進めてきている。文化村以外でも、市内の団体や商店街などが主催するイベントも行われており、士別青年会議所が主催する「キッズチャレンジタウン」や士別絵本でつなぐまちづくり実行委員会主催の「士別絵本ツアー」や、中心商店街振興組合が主催する「士別まちゼミ」など、商店街について知ってもらう機会づくりに努めている。

その他、5月には「公務員合同職業説明会」で、市役所を始め警察署、消防署、自衛隊の仕事内容を知る機会を設けた。

また、商店街マップについての提案があったが、マップは商店街や料飲店の団体が作成しており、現在道の駅には中心商店街振興組合が作成したものが施設入口に置いてある。

過去には士別翔雲高校の総合ビジネス科の生徒が旭川大学との連携事業で商店街マップづくりを行い、テレビでも取り上げられるぐらいの注目を集めた。

高島議員と同じように士別のまちが好きで、商店街の魅力を知ってもらいたいと思っている方は多数いるので、市として今後も取り組みを進めていきたいと考えている。

### 子ども議員の感想

質問通告書の文が他の議員より短かったため、もう少し長く書けば良かった。

人前で落ち着いて話すことができた。



6番 よしだ あきお 吉田 明生 議員 (士別中学校1年)

問

僕は、市の花、市の木の周知について提案する。士別市の新しい特色として、花を植え、士別市といえは花のきれいなまちと言われるようになってほしいと思っ

る。士別市の花については、市職員に話を聞いたり、調べるのとエゾノリュウキンカ、エゾムラサキツツジ、コスモスの3種類だということがわかった。これらのうち、エゾムラサキツツジは、木の花であるため、エゾノリュウキンカは、水辺または湿地に生えているため育てることが難しく、比較的育てやすいコスモスを植えてみてはどうかと考えた。しかし、コスモスは草丈が1mを超える長さまで育つものが多いため、道路沿いや曲がり角に植えることで、はみ出たり、飛び出しに気づきづらく、以前は市内各所で様々な団体がコスモスを植えていたが、現在は行っておらず、「温根別町コスモスロード」の活動が現在も続いている状態であった。そこで、まずは市役所の周りにコスモスを植えることを提案する。また、背丈の低い

品種があるのでそれを植えたら良いと考える。

敷地内の花壇にコスモスを植えることで、市の花のアピールに繋がり、将来的には士別市民や観光客にも士別市の花はきれいだなと思われるようにしたいと考える。

さらに市ポータルサイト内の士別市の花、市の木のページにおいて、現在は植物の名前と写真のみが掲載となっているので、選定の経緯などの情報を追加することで、市内外の方々にも興味を持ってもらうことができるのではないかと考える。

答 (法務副市長)

吉田明生議員からは市の特色を増やし、イメージアップを図るために花を植えることを考えたとのことだった。

近隣では、名寄市、北竜町がひまわりのイメージ、その他、滝上の芝桜、遠軽町のコスモスといったイメージが浮かぶところである。

はじめに、この市の花の選定理由だが市民から強い要望があったため、平成3年に、市の花選定委員会を設置して検討することとした。

この委員会では、33点の

花が候補として挙げられ、野生の花、誰でも栽培できる花をそれぞれ選んで市民アンケートを実施した結果、士別市を象徴して庶民的で育てやすく、風土にも適しているとされ応募数がそれぞれで最も多かったエゾノリュウキンカ、コスモスが選ばれた。

また、市の木であるナナカマドについては、昭和42年に、開道100年を記念して制定されたものである。

また、エゾムラサキツツジともう一つの市の木であるアカエゾマツであるが、これは昭和54年に旧朝日町が誕生して、その30周年を迎えた記念として制定されたものであり、平成17年に旧士別市と旧朝日町が合併したため、両市町の花と木が今の士別市の花と木となったところである。

次にコスモスを植えることについてだが、20年ほど前までは各地でコスモスを植える活動が見られていたが、縮小となっている状況である。

その中で「温根別町コスモスロード」は、地域の方々や企業団体の協力によって、美しい風景を保っており、通行

する方の癒しとなっている。

そこで温根別以外にも市役所の周りにコスモスを植えてはという提案であるが、現在は管理のことも考慮してあまり背の伸びない花やクローバーを植えている。

コスモスは、一年草である上、管理に労力がかかるため対象としていなかったが、今後コスモスを市役所の敷地内の一部に植えることを検討する。

また、市ポータルサイトのPRの内容についても今後は由来や選定理由などを掲載して、広く市民に伝えていく。

コスモスの花言葉には、調和、平和などの意味がある。恒久平和を願い、非核平和都市を宣言している本市として、コスモスをはじめとする市の花、木のイメージを大切にしつつ、今後もPR活動を行って行く。

子ども議員の感想

学習会などで会ったことのない大人に話を聞くことがあり、考えて話すこと、準備して話すことなど、大人と話すが身についた。



# 羊肉を材料とした料理による食育の推進について



## 7番 もり 森 もと 萌斗 議員 (士別南中学校1年)

**問** 私は、羊肉料理について提案する。

市長は、ジンギスカンは好きですか。

私は、小さい頃に羊飼いの家で食べたジンギスカンがとても美味しかったことが印象的で、士別市内の方たちに士別でジンギスカンを食べてもらい、再び士別に来てもらえるようにするための方法を考えた。学習を進める中で、地域おこし協力隊の方が作った「羊にまつわるパンフレット」があることや、外国人に対してもPRを行っていることを知った。

そこで、そもそも私たち市民がどれくらい羊肉料理について知っているのかと考え、周りの方達に聞いてみたところ、羊肉料理では、ジンギスカンしか出てこなかった。

私自身、料理が好きなので、家族で作れるような羊肉を取り入れたレシピを紹介してはどうかと思う。

市ではサフォークにちなんで、1日に野菜を349g食べる取り組みとして、レシピの紹介をしていた。

羊肉は高タンパク質で鉄分や亜鉛などが含まれ、低カロ

リーで栄養価が高く、健康に気をつけている方や運動をする方などにとっても良い食材なので、レシピの幅も広がるのではないかと思う。さらには、コロナ禍では難しいと思うが子どもでもできるような羊肉レシピを紹介する料理教室を開いたら食育に繋がりが、私たちも楽しく学べる良い機会になると考える。

### 答 (渡辺市長)

初めに森議員から、「市長は、ジンギスカンが好きですか。」との内容の質問があったが、大好きです。

士別市は、羊のまちとしてPRをしているほか、合宿のまち、試験、研究のまちの三つを柱にして、まちおこし、まちづくりをしている。

士別の羊肉については、国際線ファーストクラスの飛行機の機内食や国際会議、首脳会議で各国の要人が日本に集まった時に使われ、高い評価を受けている。

そういったことから、士別市の羊肉は数々の場所でPR活動を今も続けている。

平成22年に食育推進計画を策定した。食育の日に作るうしっかり野菜サフォークレ

シピも食育の推進事業の一つである。

また、5年前に20代、30代の若い世代や高校生約千人を対象に行った食事や生活習慣のアンケート結果によると野菜類や、いも類、大豆、豆類、そういったものの摂取が少ない傾向にあり、厚生労働省では1日に350g野菜を摂ると良いとしており、サフォークにちなんで349gということから始めた。

それから話にあった羊肉について、羊肉は豚肉や牛肉と比べるとカロリーが低めで良質なタンパク質を多く含み、エネルギーになる働きを助けて、疲労回復や脂肪燃焼を促す成分も含まれており、健康面でも非常に優秀な食材だと考えられる。

今後も野菜や大豆製品も含めて、羊肉を使った家庭で誰でも簡単にできるレシピの発信を続けていきたいと思っている。

また、料理教室などについては、コロナのこともあり、人が集まるのは現在、難しいと考えているが、収束した際には料理教室なども開催できるように検討を進めていきたい

いと考えている。

今日の質問の内容はジンギスカンが主だったが、羊肉を使ったメニューとしてスープカレーや、ラムとろ丼、羊籠包などといった料理をイベントを通じて市民や北海道の皆さんにPRし、高い評価を得ているため今後商品になるように、開発をしていきたいと考えている。

提案いただいた料理を作るということは育てた方、流通に関わる方、日頃作ってくれている方への感謝の気持ちであり、食材に対する命の尊さを学ぶことができる非常に大切な機会だと思っている。

今後食育の観点から、市民の皆さんと一緒に理解を深めて、まず健康になるようなメニューを作ること、素晴らしい豊かな人間性を育むためにこれからも取り組みを進めたいと思っている。

### 子ども議員の感想

市長に直接自分の考えを伝える機会など今までなかったため、質問通告書を作るときはとても悩んだが自分自身の大きな一歩を踏み出せたと思う。

# 市長からのお礼の挨拶

7名の子ども議員の皆さん  
大変お疲れさまでした。

今日皆さんが日頃生活して  
いて、このまちに対して感じて  
いることを一生懸命学習をし  
て、今日提案いただいたことに  
本当に感謝を申しあげる。

皆さんの住んでいるこのま  
ちを良くしようと思った時に  
普段なかなか気づかないこと  
も多いかと思うが、こういった  
機会を通じて一つひとつの  
ようにすると改善できるのか  
を考えることは本当にこのま  
ちづくりにおいて基本であり、  
大切なことだと思っている。

もしかすると今日皆さんが  
質問したことに対して、私たち  
市からの答弁が、もう少しなん  
とかならないのかなと思うこ  
ともあったかもしれない。

そういった時にすぐ諦める  
のではなくて、できないものを  
どうやったらできるのか、とい  
うことをさらに掘り下げてい  
くことも大変重要なことだと  
思っている。

また、まちづくりに限らず、

皆さんが学校生活を過ごす上  
で色々な難しい課題に直面す  
ることがあると思うが、今回の  
質問、答弁と同様にすぐに無理  
だと思って諦めるのではなく  
で、どのようにすればできるよ  
うになるかという考え方を持  
つことが大変重要だと思っ  
ている。

今後の学校生活に、今日の子  
ども議会で学んだことを活か  
していただければ大変嬉しく  
思う。

これから中学2年生、3年生、  
それから高校にも行くように  
なると思うが、今日のような視  
点をさらに磨き、また私たちへ  
提案をしてくれる機会を心か  
ら楽しみにしている。  
本当に今日はありがとうございました。

# 士別市子ども議会

## 子ども議会議長



### 【前半議長】

たかしま ゆうすけ  
高島 佑介 議員  
(士別中学校 1年)

### 【後半議長】

かみかわ はるか  
上川 遥久 議員  
(士別中学校 1年)

# 子ども議会の流れ

市内4校の中学校から推薦された7名の生徒が子ども議員となり、5回の学習会を通して、自らが身近に感じることや土別市の未来への思いを質問通告書としてまとめ、子ども議会に臨みました。

## 子ども議員任命式

### 第1回学習会

令和4年7月1日(金) 午後4時～午後5時40分

土別市民文化センター

・事前に15分間のアイスブレイクを実施

#### 【子ども議員任命式】

■任命書の交付と市長・副市長・教育長の挨拶

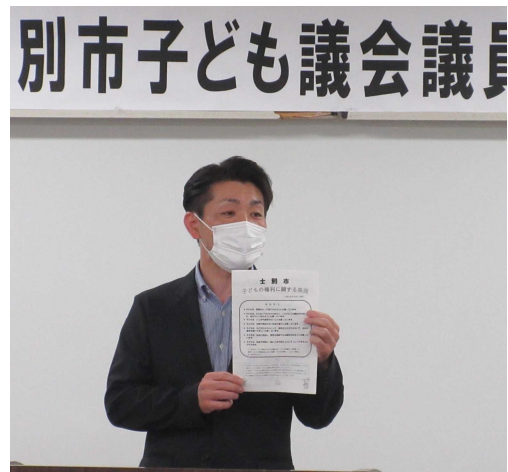
#### 【第1回学習会】

■講義「市議会のしくみ・市議会の仕事について」

(土別市議会 総務産業常任委員長／予算決算常任委員 真保 誠議員)

■講義「土別市のまちづくりについて」

(総務部企画課 久光 徹 副長)





## 第2回学習会

令和4年7月21日(木)午後4時～午後5時25分  
士別市民文化センター

■質問テーマの決定と前半・後半議長の選出

## 第3回学習会

※第3・4回事前学習会は会場を分散して実施

①令和4年9月2日(金)午後4時～午後5時30分

士別市民文化センター(士別中の子ども議員)

②令和4年9月14日(水)午後4時～午後5時30分

上士別公民館(上士別中の子ども議員)

③令和4年9月15日(木)午後4時～午後5時30分

士別市民文化センター(士別南中の子ども議員)

④令和4年9月27日(火)午後4時～午後5時30分

朝日支所(朝日中の子ども議員)

■質問テーマの調査研究と質問通告書の作成

## 第4回学習会

①令和4年9月21日(水)午後4時～午後5時30分

士別市民文化センター(士別中の子ども議員)

士別市民文化センター(士別南中の子ども議員①)

②令和4年9月22日(木)午後4時～午後5時30分

士別市民文化センター(士別南中の子ども議員②)

③令和4年9月29日(木)午後4時～午後5時30分

朝日支所(朝日中の子ども議員)

■質問テーマの調査研究と質問通告書の完成

## 第5回学習会

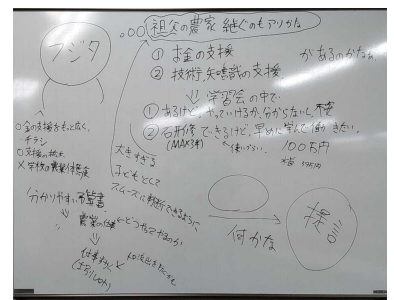
令和4年12月9日(金)午後4時～午後5時30分  
士別市議会本会議場

■本番に向けた総練習

・入場練習

・質問通告書読み上げ

・子ども議会リハーサル



学習会の様子及び本番に向けた総練習風景

子ども議会の当日



中峰 寿彰 教育長



法邑 和浩 副市長



渡辺 英次 市長





## 令和4年度 士別市子ども議会だより 令和5(2023)年3月6日発行

【発行編集】士別市教育委員会生涯学習部中央公民館企画運営係  
〒095-8686 士別市東6条4丁目1番地 士別市民文化センター内  
電話 0165(26)7223  
FAX 0165(23)3358  
メール kohminkan@city.shibetsu.lg.jp  
【士別市HP】<https://www.city.shibetsu.lg.jp>